

キク科 ニガナ属

イワニガナ (岩苦菜)

Ixeris stolonifera A.Gray

自生環境

林縁、岩場、野原 など

原産地

日本在来

生育を脅かす要因



理由は不明ですが、なぜか市内では滅多に見られません。そのため、工事や除草剤散布、外来種の繁殖など、些細なことがきっかけとなり、消滅してしまう可能性があります。

特徴

- ☆ 日当たりのよい山野に生える多年草です。同じ仲間によく似たオオジシバリは比較的湿った野原に多いのに対して、イワニガナは里山環境を好む傾向があります。名前のとおり、石垣のすき間や岩場などにもよく生えます。
- ☆ オオジシバリとの一番のちがいは葉のかたちです。オオジシバリの葉は細長いへら形で、びよんびよんとだらしく垂れる傾向にありますが、イワニガナの葉は丸っこくて、長くのびて垂れさがるようなことはほとんどありません。
- ☆ 春、葉わきから高さ 10cm 程度の花茎をのびし、直径 2cm ほどの、小さなタンポポのような黄色い花を咲かせます。果実は綿毛がついていて、風の力で遠くまで運ばれていきます。

市内の分布状況

市内では稀です。現存を確認できているのは清水公園と野田市駅周辺のみですが、ていねいに探せばもつと見つかるかもしれません。



地面をしばる草

イワニガナはジシバリ（地縛り）とも言います。これは、茎が地を這うようにのびて、節々から根を下ろしていく姿が、まるで地を縛って見えることからきています。野田市に多い仲間のオオジシバリも、イワニガナ（ジシバリ）に比べると大型であることが名前の由来です。その他、まったく別な種類ですが、茎が地を這い節々から根を出すツルヨシやメヒシバリも「ジシバリ」の別名を持ちます。



せつしょうな
舌状花

1枚の花びらのように見えるが、これで1つの花



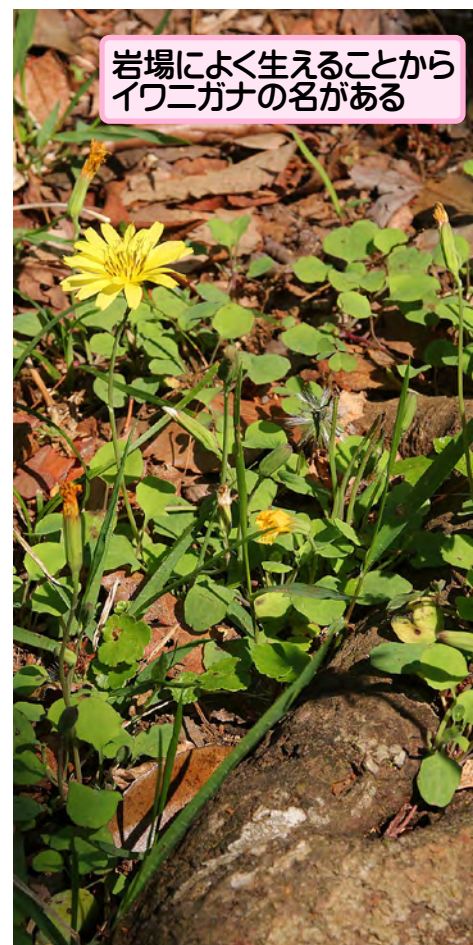
オオジシバリに似るが、葉の形や大きさがちがう



茎は地面を這うようにのびていく



葉は丸っこい



岩場によく生えることからイワニガナの名がある

わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

